



静岡県立美術館

2014年4月4日[金]→5月25日[日]

静岡県立美術館では、「大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリーポスターのある街角」を開催いたします。本展は、静岡第一テレビ開局35周年記念事業でもあります。

近代日本洋画において、際だった個性の輝きを放つ佐伯祐三(1898-1928)。大阪に生まれた佐伯は、東京美術学校を卒業して渡仏後まもなく、フォーヴィスム(野獣派)を代表する画家のひとりであったモーリス・ド・ヴラマンクに「アカデミック!」と作品を批判されたことを契機に、自らの作風を模索し始めます。やがてパリの石造りの建造物や壁にモチーフを見出し、独自の様式を確立しました。1926年、一時帰国して里見勝蔵や前田寛治、小島善太郎、木下孝則と「一九三〇年協会」を結成しますが、パリへの想いは断ちがたく再びフランスに向い、この二度目の滞在において、パリの街並みに広告の文字が躍る名作を次々と生み出しました。しかし、魂のすべてを燃やし尽くすかのように絵画制作への熱情に駆られる日々は画家の健康をむしばみ、その命はわずか30歳でパリに散ることになります。短くも情熱に満ちた生涯が生み出した作品は鮮やかなきらめきを、死後80年以上を経た現在も、多くの人々を魅了し続けています。

佐伯の出身地に建設予定の大阪新美術館は、いち早くこの画家の才気に気づいた実業家・山本發次郎の収集品を基盤とする、日本最大かつ最高水準とされる佐伯祐三コレクションを誇ります。本展では、この珠玉のコレクションから佐伯作品58点を一堂に展示し、この天折の画家の留学前から晩年までの波乱に満ちた画業をたどりま。同時に、里見勝蔵やヴラマンクなど、フランスで交流のあった画家たちの作品を展示するとともに、1920年代前後のパリの街角を飾ったポスター作品(サントリーポスターコレクション)も出品し、佐伯を魅惑して止まなかった芸術の都パリの華やぎをお楽しみいただきます。



◆開催情報

□展覧会名 静岡第一テレビ 開局35周年記念

大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

Yuzo Saeki and Posters in Paris around 1920s

□会期 2014年4月4日(金)ー5月25日(日)

□会場 静岡県立美術館 (静岡市駿河区谷田53-2)

□開館時間 午前10時～午後5時30分 *展示室への入室は午後5時まで

□休館日 毎週月曜日 ただし、4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館、5月7日(水)は休館

□観覧料 大人:1,000(800)円 高校生・大学生・70歳以上:500(400)円 中学生以下:無料

* ()内は前売および20名以上の団体料金。前売券は4月3日(木)まで販売

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料

* 収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます

□主催 静岡県立美術館、静岡第一テレビ、大阪新美術館建設準備室、読売新聞社、美術館連絡協議会

□協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

□協力 静岡日仏協会

□チケット販売所 【前売券は4月3日(木)まで販売】

[前売・当日券]

チケットぴあ、サークルK・サンクス、セブンイレブン(Pコード共通 766-020)、ローソンチケット、ミニストップ(Lコード共通 45652)、静岡県立美術館

[前売券のみ]

大和文庫、戸田書店(静岡本店・江尻台店)、江崎書店(パルシェ店)、谷島屋(呉服町本店)、吉見書店(竜南店)、大丸松坂屋友の会、静岡県立大学売店、静岡大学生協、静岡県庁本館1階売店、静岡市美術館ミュージアムショップ、グランシップ、静岡日仏協会

◆佐伯祐三略歴

1898(明治31)年 大阪府西成郡中津村(現在の大阪市北区中津)の浄土真宗本願寺派・房崎山光徳寺住職の次男として誕生。

1917(大正6)年 上京して川端画学校、本郷洋画研究所に学ぶ。翌年、東京美術学校入学。

1920(大正9)年 池田米子と挙式。

1922(大正11)年 長女・彌智子誕生。

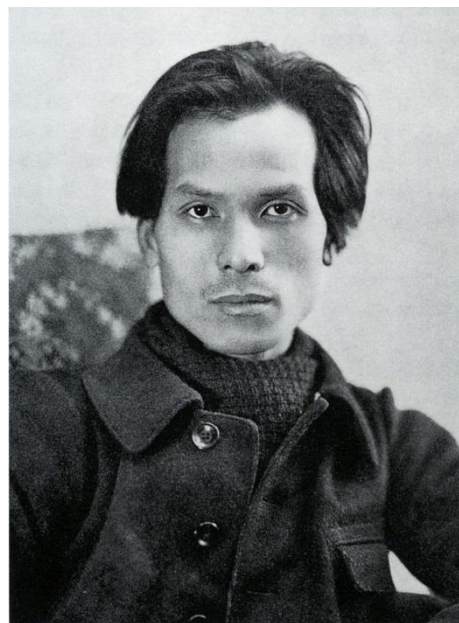
1923(大正12)年 東京美術学校を卒業し、渡仏。翌年パリ着。

1924(大正13)年 友人の画家・里見勝蔵とともにヴラマンクを訪問。自作を「アカデミック!」と批判され、大きな転機を迎える。

1926(大正15・昭和元)年 病弱な佐伯を心配した家族の説得を受け入れ、日本に帰国。直後、里見らとともに「一九三〇年協会」を結成。

1927(昭和2)年 再渡仏。

1928(昭和3)年 3月頃、喀血し病床に伏す。8月16日、パリ郊外の精神病院で死去。その2週間後、長女・彌智子も死去。





◆**展覧会構成**（画像掲載作品は、記載がないものはすべて大阪新美術館建設準備室蔵）

□**第1章 大阪から東京、パリへ**

大阪に生まれた佐伯は、19歳で上京し1918(大正7)年、東京美術学校西洋画科に入学。在学中に、池田米子と結婚して下落合にアトリエ付の家を新築し、長女・彌智子も生まれた。そして1923(大正12)年3月に同校を卒業すると、里見勝蔵などの後を追って佐伯も渡仏。モーリス・ド・ヴラマンクに自作を批判されたことを契機に自己の作風を求めて制作に励んでいたが、家族の説得により、1926(大正15・昭和元)年に帰国。「一九三〇年協会」の創立に加わった。

本章では、最初期から第一次渡仏期、一時帰国時の佐伯の作品32点を展示。



《立てる自画像》1924年
油彩、カンヴァス
80.5×54.8cm



《壁》1925年
油彩、カンヴァス
73.1×60.8cm

□**第2章 佐伯をめぐる画家たち**

第一次パリ時代、佐伯は様々な影響を吸収しながら独自の表現を確立した。自身に転機をもたらした画家であるヴラマンク流の荒々しい風景描写を学んだ後、モーリス・ユトリロに魅了され、パリの街並みに描くべき題材を見出す。またこの時期の佐伯は、里見勝蔵、中山巍(たかし)、前田(まえた)寛治らの友人の画学生に囲まれていたが、この交友は帰国後の活動へと結実する。一方、一時帰国後の第二次パリ時代では、佐伯は、大橋了介、横手貞美、荻須高德といった、後進の画家たちに影響を与えた。

本章では、佐伯やその画風と関わりのある日仏の画家たちの作品18点を展示。



横手貞美《ローズリー別荘ヴェトゥイユ》1929年
油彩、カンヴァス 60.0×73.0cm



□第3章 パリ、街角のポスター

佐伯を魅了した1920年代のパリは、アートとファッション、そして装飾美術の中心であり、消費を謳うポスターであふれていた。本展では、1920年代とその前後に制作されたポスター29点を展示し、時代を証言するものとして、佐伯祐三が訪れたパリの空気を伝える。

【会期中、ポスター作品の展示替を行います。[前期展示]4月4日(金)~4月20日(日) [後期展示]4月22日(火)~5月25日(日)】



シャルル・ジェスマール
《ミスタンゲット》1926年
リトグラフ
120.0×78.0cm
サントリーポスターコレク
ション(大阪新美術館建
設準備室寄託)
【前期・後期展示】



レオネット・カッピエッロ
《ラジオラ SFER-20》
1925年 リトグラフ
78.8×59.2cm
サントリーポスターコレク
ション(大阪新美術館建
設準備室寄託)
【後期展示】

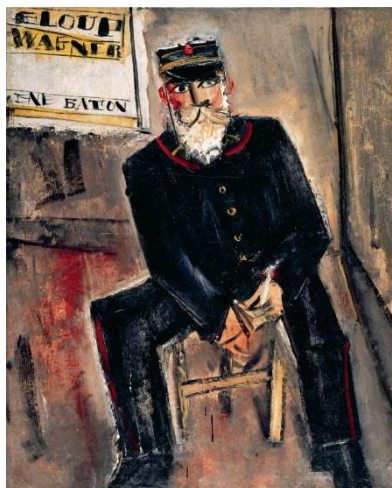
□第4章 再びパリへ

帰国したものの、パリへの想いを断ち切れない佐伯は、1927(昭和2)年、再びかの地へと舞い戻る。「こんどは決死の勉強をする決意でいる」との言葉通り、何かにつかれたかのように制作に没頭する昂揚感の中で、佐伯は、今日名作とされる作品を次々と生み出した。しかし、制作に明け暮れる生活は健康をむしばみ、翌年8月、佐伯は終に病魔に倒れわずか30年の生涯をパリで終えた。

本章では、この第二次渡仏期の佐伯作品26点を展示し、その画業の回顧を締めくくる。



《レストラン(オテル・デュ・マルシエ)》
1927年 油彩、カンヴァス 54.5×65.4cm



《郵便配達夫》1928年
油彩、カンヴァス
80.8×65.0cm



◆佐伯祐三以外の出品作家

大橋了介、荻須高德、里見勝蔵、里見宗次、佐野繁次郎、藤田嗣治、横手貞美、シュザンヌ・ヴァラドン、キース・ヴァン・ドンゲン、モーリス・ド・ヴラマンク、A.M.カッサンドル、レオネット・カッピエツロ、ジャン・カルリュ、シャルル・キフェール、ジャン・コクトー、ポール・コラン、シャルル・ジェスマール、ジャン・デュパ、モーリス・デュフレヌ、ジョルジュ・バルビエ、ロジェ・ブロードール、マックス・ポンティ、ロベール・ボンフィス、モーリス・ユトリロ、シャルル・ルーポ、アンドレ・ロート、マリー・ローランサン

◆関連イベント

□わくわくアトリエ(関連ワークショップ)「風景パピエ・コレ」

「佐伯祐三とパリ」展にあわせ、「文字」を取り入れた風景を作るワークショップ。

日時:4月19日(土)・20日(日) 10:15~15:30

講師:持塚三樹氏(現代美術家)

会場:当館実技室

対象:小学生から大人まで(小学校3年生以下は保護者と参加のこと)

定員:各回20名程度(定員を超えた場合は抽選)

材料費:600円程度(これに加え、展覧会観覧料が必要になります。)

* 事前申込必要(申込締切は4月8日[火]必着)。申込方法等詳細は、当館HPをご覧ください。実技室担当(Tel:054-263-5857)までお問い合わせください。

□特別講演会

「佐伯祐三と1920年代のパリ」

講師:熊田司氏(和歌山県立近代美術館館長)

日時:4月26日(土) 14:00~15:30

会場:静岡県立美術館講堂 * 申込不要、無料、先着250名様まで。

□まったりロビーコンサート

「佐伯祐三が愛したパリの音楽」(仮)

出演:カオリアコーディオン(アコーディオン奏者)

日時:5月5日(月・祝) 11:00~11:30、14:00~14:30

会場:静岡県立美術館エントランス(予定) * 申込不要、無料。

□美術講座

「1920年代、パリの諸相—エコール・ド・パリ、アール・デコ、宝塚少女歌劇」

講師:三谷理華

日時:5月10日(土) 14:00~15:30

会場:静岡県立美術館講座室 * 申込不要、無料。



□フロアレクチャー

静岡県立美術館学芸員が展示室にて解説を行います。

日時:4月27日(日)、5月11日(日)いずれも14:00より30分程度

集合場所:静岡県立美術館企画展第1展示室 *申込不要、観覧料が必要です。

■イベントはいずれも予定です。詳しくは展覧会公式サイトもしくは美術館ウェブサイトをご覧ください。

■本展は、宇都宮美術館(2014年9月7日(日)~11月3日(月・祝))、山梨県立美術館(2014年11月15日(土)~2015年1月18日(日))へ巡回の予定です。詳しくは各会場にお問い合わせ下さい。

■プレス用画像申請につきましては、静岡県立美術館ウェブサイト(<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>)の「佐伯祐三とパリーポスターのある街角」展 特設ページをご確認ください。

■お問い合わせ先

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館

学芸課担当(三谷) Tel: 054-263-5857 Fax: 054-263-5742

総務課担当(横畑) Tel: 054-263-5755 Fax: 054-263-5767